



2022年6月30日

各 位

会 社 名 株式会社エージーピー  
 代表者名 代表取締役社長執行役員 大貫 哲也  
 (コード番号:9377 東証スタンダード市場)  
 問合せ先 経営企画部 執行役員 竹山 哲也  
 TEL. 03-3747-1631

### 上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況について

当社は、2021年12月23日に、『スタンダード市場の上場維持基準への適合に向けた計画書』（以下「本計画書」という）を提出し、その内容について開示しております。

2022年6月30日時点における本計画書の進捗状況等について、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 当社の上場維持基準への適合状況の推移及び計画期間

当社の2022年3月31日時点におけるスタンダード市場の上場維持基準への適合状況はその推移を含め、以下のとおりとなっており、現状では流通株式比率についての上場維持基準を充たしておりません。中期経営計画（2022-2025年度）の期間に合わせた2026年3月末までを目途に上場維持基準を充たすために各種取組を進めてまいります。

		株主数 (人)	流通株式数 (単位)	流通株式時価総 額 (億円)	流通株式比率 (%)
当社の 適合状況 およびその推移	移行基準日 時点 *1	1,308	24,388	13.6	17.4
	2022年3月31日 時点 *2	1,283	24,085	12.9	17.2
上場維持基準		400	2,000	10	25.0
計画書に記載の 項目		—	—	—	2026年3月末

\*1 東証が移行基準日時点（2021年6月30日）で把握している当社の株式等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

\*2 2022年3月31日時点の数値は当社が株主名簿管理人より入手しました株式分布状況表等をもとに算出を行ったものであります。

#### 2. 上場維持基準の適合に向けた取組の実施状況及び評価（2021年12月～2022年3月）並びに今後の課題と取組内容

##### 【流通株式比率】について

##### ① 取組の実施状況と今後の課題

当社株式については、過去の設立から現在に至るまでの経緯により、上位3位までの事業法人による当社株式保有が8割を占めており、出来高が些少となっています。それに起因して純投資目的の投資家の参加率が低い状況であることを課題として認識しており、上位3位の事業法人に対して当社株式保有比率低減に向けてのご協力をお願いしてまいりました。現在、当該株主の状況や方針を尊重しつつ、具体的な取組について協議をしている最中ですので、現時点では流通株式比率の向上に進捗はございません。

##### ② 取組に対する評価と今後の取組内容及び当初の計画内容から変更した理由

当該株主とは引き続き協議するなど従来からの流通株式比率向上への取組を進めるとともに、以下に記載の企業価値向上に向けての取組を着実に遂行することで基準の達成が

図られるものと評価しております。

具体的には、本計画書に企業価値向上に向けての取組として「当該中期経営計画は 2022 年度第 1 四半期に公表を予定しており、合わせて本計画書も更新いたします。」とお示しさせていただきましたが、2022 年 5 月 26 日に中期経営計画(2022-2025 年度)を公表しました。

中期経営計画(2022-2025 年度)では、株主還元の充実を図る施策としては、株主還元方針の変更を行い、「持続的な成長により、1 株当たりの利益 (EPS) を増大させることをもって株主価値向上を図るとともに、株主の皆さまへの還元をこれまで以上に充実させるために、配当および自己株式取得に積極的に取り組み、本中期経営計画期間である 4 年間の総還元性向 100%以上を目指します」ことを打ち出しました。

なお、現在、認知度向上に向けて IR 活動の推進・強化、投資家向けの情報発信の充実に向けた各種取組を推進しており、より具体的な事業戦略等の説明を加えるとともに、コロナ禍により中断していた個人株主及び機関投資家の皆様への説明会を再開しております。

今後も、投資家層の拡大を目指し、純投資目的の個人株主及び機関投資家の皆様に、幅広く関心を持っていただき、資本・株式市場における当社の評価を上げるよう努めます。加えて、中期経営計画の進捗による業績向上、収益性の向上に応じた更なる利益還元の実現ができるよう努めてまいります。

以上